

# AIDS UPDATE

No.67 2006.11.7

広島大学病院

エイズ医療対策室

内線5581（輸血部長室）

Internet: www.aids-chushi.or.jp

## 第13回 アジア地域エイズ専門家研修について

今年で13回目になります「アジア地域エイズ専門家研修」について報告します。ご存じの通り広島大学病院は、中四国地域のエイズブロック拠点病院です。そのため、国内だけでなく海外からの研修生もお世話させて頂くことがあります。この度は、以下のスケジュールで行われました。

- 13:00- 歓迎のあいさつ 浅原病院長
- 13:15- 講演①「地方のエイズセンターとしての広島大学病院の役割」  
高田エイズ医療対策室長
- 13:45- 講演②「本院で実施している HIV 感染症関連の臨床検査」石川医師
- 14:00- 講演③「チーム医療：看護師による支援」  
小川看護師
- 14:10- 講演④「チーム医療：薬剤師による支援」  
畝井薬剤師
- 14:20- 講演⑤「チーム医療：心理的サポート」  
喜花臨床心理士
- 14:30- 講演⑥「チーム医療：社会的サポート」  
船附ソーシャルワーカー
- 14:40- スタッフとの自由討議と質疑応答
- 15:10- 輸血部の検査室案内（HIV 検査法の説明）藤井医師、輸血部検査技師
- 15:40- 自由討議と質疑応答
- 15:55- 終了の挨拶 木村血液内科教授

多職種の方々が、それぞれの立場で HIV 診療の関わりについて講演をされました。その中でも講演「チーム医療：心理的サポート」については、その仕組みや経費について質問が多数出ました。

エイズに対して有効な治療法がない時代（日本では1980年代から90年代前半）には、心理的サポートが医療の中で大きな役割を占めていました。重要なことには変わりありませんが、有効な治療法がある現在では、個人的には他分野に押されてその役割がやや小さくなった感じがしていました。しかし、心理サポートの重要性を再認識させられました。

後半は本院で行っている HIV 関連検査の説明を現場でさせて頂きました。以前は「この機械いくらくらいですか？」と尋ねられ、「...くらいです。」と答えますと、その金額に目を丸くしていらっしゃる方も多くいらっしゃいましたが、この度はあまりそのような反応をされる方はいらっしゃいませんでした。アジア地域は HIV 感染者が増加している地域であり、国が真剣にエイズ対策に取り組み、その効果が現れているところもあります。資金的補助もかなりあって、こういった高価な測定機器も使用できるようになったのかな？と思わせる出来事でした。一方日本はというと、先進国の中で相変わらず新規感染者が増加している上、国のエイズ対策の費用は削減されています。このままでは、日本に学ぶことはなくなったと思われるのでは？と考えるのは杞憂でしょうか？

（輸血部 藤井）

# サンフランシスコ研修 に、行ってきました。

エイズ医療対策室、看護師の後藤です。10/7から10/21まで2週間にわたってエイズ拠点病院医療従事者海外実地研修へサンフランシスコに行ってきました。1日目と2日目は、移動と時差調整のための観光で、勉強はお休み。3日目(10/9)から実際の研修が始まりました。

研修生は、私を含めて4人。旭川、石川、新潟の各ブロック拠点病院の看護師が参加しました。研修は63時間、18コマのプログラムとなっていました。全部は書ききれないので、そのうちの一部について触れたいと思います。

## サンフランシスコのエイズケアシステム

サンフランシスコは人口75万人の都市で、その内ゲイが15%いると推定されている。サンフランシスコにはエイズ患者だけで8千人おり、人口の100人に1人はエイズ患者という計算になる。1995年以前は感染者の78.6%はゲイの感染者であったが、2004年には60.2%まで減少、IDU(Injection Drug User)が13.8%へ増加している。HIV患者の医療費負担はHMO、PPO(アメリカの健康保険のタイプ)などにより違いはあるが、NGOが薬代を負担するプログラムが提供されていたり、送迎サービスのプログラムを提供したりしている。

(私の感想)ゲイが多く住む地域があるため、ゲイにとって住みやすい街のようでした。実際その地域に行ってみると、至るところにレインボーフラッグが掲げられ、他の地域と違ってポコポコの車はほとんど見かけず、道路にゴミも落ちておらず、お洒落な雑貨屋さ

んが多い地域でした。ただ、そのような地域の中に、「最近 HIV が分かった人は電話して!」という看板を見かけた時には、HIV感染者が多いことを改めて感じました。

また、その地域以外でもバス停留所には、抗 HIV薬の広告が貼ってあったり、街に「僕はエイズ。ご飯を全然食べていない」と書いたボール紙を掲げた人が座っていたり(この人が本当にエイズかは分かりません…)と、エイズ患者さんが多い事を感じました。一方、日本でも新規感染者が1日に3人も見つかり、年々感染者数が増加していることを考えると、いつか日本にもこんな時代がくるのかも…と思いました。



街で見かけた HIV+ が新たに分かった人への呼びかけ看板

## カイザーパーマネンテ病院の見学

HIVケアにあたるのは、医師4名、ソーシャルワーカー2名、薬剤師1名、看護師兼ケースマネージャー4名、健康教育士(看護師)1名で、現在750名の患者を診ている。患者の内訳は男性82%、女性18%で、男性の感染経路は80%がMSM、20%はIDUである。また女性の感染経路の93%がHeterosexualである。患者の状態はAIDS期が65%で、72%がHAARTを行っており、そのうち83%がウィルス検出限界以下(VL<75)である。

(私の感想)当院の患者様と比較すると、カイザー病院の方が女性の割合やIDUでの感染者の割合が多かった。そのため、カイザー病院では、月に3回女性専用外来があり、症例検討会には、薬物依存専門カウンセラーも参加しているなどの当院とは違う状況が見られました。

## セルフマネジメント

HIVは慢性疾患であり、受診継続、服薬、safer sexなどが重要であることに加え、HAARTによる副作用で循環器疾患へのリスクの増大があり、多くの患者が成人期であるということから、生活習慣（食事、運動、喫煙、飲酒）へのセルフマネジメントも重要と言われている。このコマでは、行動変容理論としてステージモデルと自己効力感を学んだ上で、自己効力感を理論的背景に用いたカウンセリングをロールプレイで行い、技術を磨いた。

**（私の感想）** 毎回外来では、患者様の行動変容が促進されるような内容となるように、面談を行っているが、なかなか難しい場合も多い。今後もスキルアップのために継続的な訓練が必要だと感じました。



HIV ケアを担当する  
現地の看護師たち

これまでこの研修会に参加されていない方も、来年ぜひ参加されてみてはいかがでしょうか。

（エイズ医療対策室 看護師 後藤）

## 「第7回HIV/AIDS医療における カウンセリング研修会(近畿ブロック)」 参加報告

「第7回HIV/AIDS医療におけるカウンセリング研修会（近畿ブロック）」が10月20日に国立大阪医療センターで開催されました。

コメンテーターに富山大学の岸本寛史先生と松

浜病院の古谷野淳子先生を迎え、午前午後に渡り、2つの事例をじっくりと検討することのできた有意義な研修会でした。

研修会前半は、HIV感染者の心理検査（認知機能検査・性格検査）を担当する精神科所属心理士の立場からの特にバウムテストを中心にした事例報告でした。検査時のみの関わりでありながら、とても細やかに関わっておられることが分かる報告でした。

また、HIV感染の患者さんに対して、大阪医療センターでよく使っている認知機能評価も紹介してくださいました。

- ・ JHDS（HIV痴呆スケール日本語版）
- ・ FAB（前頭葉機能検査）
- ・ 長谷川式
- ・ ミニメンタルテスト
- ・ N式

心理検査はクライアント理解と方針決定のためのみではなく、使い方によってはクライアントの十分な自己表現の機会ともなることを教えていただきました。

研修会後半は、感染症科所属の心理士によるHIV感染者の心理療法の報告でした。HIV感染以前から持っていた問題も含め、クライアントが着実に変わっていかれる様子、またとても丁寧に関わっておられるカウンセラーの姿勢に感銘を受けました。この事例では、HIVカウンセリングの特殊性以上に、心理療法のあり方について深く学ばせていただいたように思います。

大変有意義な研修会であり、このようなHIVカウンセリングの事例検討の機会を中国四国ブロックのHIVカウンセラーの皆様にも提供できればと感じました。（エイズ医療対策室 心理士 喜花）

## エイズ予防・啓発教育研修(東京) 参加報告

エイズ予防財団主催の『エイズ予防・啓発教育研修』が10月26日(木)27日(金)の2日間にわたって東京で開催され、エイズ医療対策室からは、情報担当の佐藤が参加してきました。今年8月に大阪で行われた同研修に続いて、2回目となる予防・啓発教育研修への参加となりましたが、その内容は大阪の研修会とは大きく異なるものでした。

前回の研修会と大きく異なった点は、グループ討論の前に予防啓発プログラムのあり方について、しっかり講義が組み込まれていたこと、そして、参加者のニーズにあわせた分科会が設けられたことです。

まず、プログラムについてですが、計画 実施(モニタリング含む) 評価の流れの中で、「まず始めに計画ありき。」と講師の先生が何度も何度も言われていたのがとても印象に残っています。何らかの予防プログラムを実施したことに満足するのではなく、それらのプログラムの実施にあたって、どれだけターゲットを明確に絞ったか、事実を把握できているか、評価方法を測定可能なものに設定することができるか。こうして得られたエビデンス、そしてそれに基づく更なるプログラムの改良や実施こそ重要であると改めて感じました。こうして文字にしてみると極めて当たり前のことですが、随分と労力を要する作業です。

次に、分科会は以下3つのものが設けられました。  
行政と民間との連携  
感染者への理解促進  
若者への予防啓発教育

私は の行政と民間の連携に参加しました。行政・医療職・NPO/NGO 団体。それぞれの立場も違えば、使える予算、人的資源、予防啓発への関わり方、またその対象となるものも様々です。私のグループでは「中核都市における若者への啓発」をテーマに行政と民間との連携を話し合いました。

時間の都合から、最終的なプログラムを作り出すまでには至りませんでした。それでも今回の研修では、自分の現在の仕事内容を振り返り、『連携』というキーワードに対してその問題点や解決案など、多くのことを考えさせられる研修となりました。

予防啓発のプログラムを今すぐに練り、実行に移すことはできませんが、まずは広大病院内で行われる勉強会や講演会のお知らせをすることで、みなさんにも HIV/AIDS に関する興味・関心を持っていただくところから始めたいと思っています。

(エイズ医療対策室 情報担当 佐藤)

## 2006年11月・12月 HIV/AIDS関連イベント

### 「見落としやすいサイトメガロウィルス感染症」

日時：11月9日(木)19:00~

場所：医学部第5講義室

講師：上平朝子先生(大阪医療センター)

### 「見逃し注意！ HIV 感染症早期発見のコツ。」

日時：11月13日(月)17:30~

場所：外来棟3階大会議室

講師：山元泰之先生(東京医科大学病院)

**公開学習会「HIV と呼吸器疾患・肝疾患」**  
(**広大病院エイズワーキンググループ院内勉強会**)

講師：9階西病棟看護師 久保美由紀  
高度救命救急センター看護師 山谷恵子  
外来南 看護師 木下一枝

【1回目】11月14日(火) 17:30~18:45

場所：中会議室

【2回目】11月24日(金) 17:30~18:45

場所：入院棟カンファレンスルーム1

1回目と2回目の講義の内容は同じです。

\* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \*

一緒に HIV の勉強をしてみませんか？  
～公開学習会のお知らせ～  
エイズワーキング 小川良子

エイズワーキンググループは広島大学病院の看護師でエイズ予防財団主宰の海外実施研修に参加した者を主に構成されています。総勢 17 名で広島大学病院の HIV 感染患者の看護の質向上に努めています。

今回当院看護師対象に学習会の開催を企画しました。これまで HIV の研修会や勉強会に参加したことのない方、HIV 感染患者の看護で困っている方、最新の情報を知りたい方、どなたでも結構です。一緒に HIV の勉強をしませんか？

今回のテーマは「HIV と呼吸器疾患・肝疾患」です。最近当院で見かける機会の多い疾患を題材にしました。どの病棟・どの外来にも患者様は来られます。ちょっと今の知識に上乘せして HIV 感染患者の看護に役立てませんか？看護師のみなさまの参加をお待ちしています。

\* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \*

**第 20 回エイズ学会学術集会・総会**

期間：11月30日(木)～12月1日(土)

場所：日本教育会館他(東京都)

会長：池上千寿子(プレイス東京)

**第 17 回薬剤師のための抗 HIV 服薬指導  
研修会 & 平成 18 年度第 1 回  
HIV/AIDS 専門カウンセラー研修会**

日時：12月9日～10日 12:00～

場所：八丁堀シャンテ

**第 2 回看護師のためのエイズ診療従事者  
研修アドバンスト・コース**

日時：12月13日～14日 9:00～

場所：広大病院カンファレンスルーム 1

に関しては、既に申し込みを締め切っております。興味のある方は次回のご参加をお待ちしております。

これらのイベントの詳細、またその他 HIV・AIDS 関連イベントは、中四国エイズセンターのホームページに掲載されています。

<http://www.aids-chushi.or.jp/calender/2611.htm>

次回の AIDS UPDATE はでは、これらのイベント報告を主に行う予定です。お楽しみに！

**<ご意見募集>**

ご意見やご希望がありましたら、エイズ医療対策室  
(5351/5581) までお寄せ下さい。

[TAKATA, SATO]

nobotaka@hiroshima-u.ac.jp